

北名古屋市市民協働フォーラム概要

(1) 基調講演概要

こんにちは。本日は「なぜ今協働か」という話をさせていただきます。北名古屋市は合併してから6年目ということですが、今日の協働の話もそうですが旧西春町と旧師勝町と一緒にやること自身が協働です。

行政と市民が一緒に行ったり、協働したり、パートナーを組むことによって1+1は3以上、5になることを狙っているわけです。既にもう協働しているよとおっしゃるかもしれませんが、更にこれからいろいろとやって行こうということです。

今、北名古屋市は人口は増えています。それは喜ばしいことです。若い人に比べて年をとると税金を使う方にまわり医療費も介護保険も使います。若い人が流入し、住みつき税金を払ってくれるまちにしないとそのまちは廃れていきます。北名古屋市は名古屋市に隣接していますから、若い人が入ってくる仕組みにすればいいまちになると思います。まちによって抱える問題が違います。これらの問題をみんなで協働で解決に向かって進みましょう、自分のまちは自分たち住民でよくしましょう。そのためには自分で活動しなければいけない。このことが今日の話の中心です。

北名古屋市の課題

北名古屋市の社会的、経済的環境はよいといえますが、いずれ高齢社会になります。行政もこれまでのような仕事のスタイルではいけないだろう、新しい行政のあり方を作り上げなければいけない、一層の地元企業や地域との連携が必要になってきます。

協働は住民に限られた資源、つまり人的資源である人材、お金、物、情報をいかに上手く使えるかが鍵です。人材つまり人が財産です。防犯でいえば景気が悪くなると犯罪数が増えます。しかし警察官の数をどんどん増やすことはできないので、自分達でやらなくてはいけないということになります。それから行政は市民活動をサポートする側にまわることが特に求められます。協働はあくまで目的達成の手段です。よりよい北名古屋市をつくるために協働で推し進めたほうがいい。これまで市でやっていたものを市民と一緒にやった方がよいものもあります。つまり協働のパターンはいろいろあります。

自分のまちを好きにならないと自分のまちを良くしようとはだれも思いませんね。まちの良さを発見しましょう。自分の地域の課題、北名古屋市全体の共通の課題、協働のテーマは、時代の変化に対応して変わります。地域活動に参加している方は当たり前のことだと思っていますが、まずは活動しなくてはなりません。

協働の事例

協働の事例を映像を見ながらいくつか紹介します。犬山市「子ども大学」、市民を講師にしてさまざまな講座を行っています。例えばこういう取り組みを北名古屋市でもやるといいですね。次は北名古屋市の外国人との交流の例ですね。こういうテーマも地域の問題です。次は環境の例です。まちをきれいにしようとだれもが思います。しかし、全部市の職員がやっていたら人や予算が足りませんね。ですから花の苗や種や球根は市が供給し、そのお世話は市民がします。荒れたまちにはどろぼうが入りやすい。きれいなまちはどろぼうが入りにくい。そういう面からは環境だけの問題ではなく、防犯の問題にも関わります。防犯の例では、子ども見守り隊やパトロール。こういう活動によってまちはより安全になります。では安全のためだけでやるかということとそうでなくて、例えば朝、お年寄りが子



ども達と話しをするというコミュニケーションの場でもあります。副次効果です。次は川をきれいにするという環境整備です。新川は北名古屋市だけに流れているのではなく、広域に流れています。そうすると川をきれいにするには広域連携が必要になってきます。防犯も広域問題ですね。北名古屋市でどろぼうが多発した場合、他地域に逃げられたらアウトですから連携しなくてはなりません。防犯や環境はお互いにつながっています。お互いの助け合いが協働です。次は婦人会活動の映像です。協働を考える時すでにある古い団体、古い組織を協働の目で見直して作り直す必要があります。合併した新しい市ですから、いろいろな組織を再活性化させるのも大きな課題です。自治会、町内会も同じですね。次の例はお祭りです。お祭りもまちをまとめる方法として重要です。古い祭りをなんとか続けるようにする、祭りが無いところでは新しく協働でつくるのもいいでしょう。こういう協働事例がいくつかあります。

行政・市民の方向

今日ここには行政の方がみえますが、行政はこれから大きく変わらなくてはなりません。行政は住民からの税金をもとに事業をしますから、原則は「平等と公平」にやらなくてはなりません。しかし、地域によって課題が違いますから、平等と公平だけではうまくいかない場合が出てきます。この辺が協働のテーマですね。行政と市民はお互いに補う関係（補完関係）です。今後高齢化、医療、介護、年金、少子化、保育園、学校などの諸問題により、行政の財政事情が悪化していく要因はたくさんあります。また、公務員の皆さんも高齢化していきます。若い人を補充しないと仕事できませんし、行政は行政効率も上げていかないとはいけません。いままで通りではいけなくなっています。

一方、市民の側はどうかといえば、これまではどちらかといえば行政依存型でした。特に財政力の豊かないわゆる金持ちの市はそういう面があります。北名古屋市の財政力指数は0.91で少し赤字です。金持ちの市はお金があるから市民協働の参加率が低いといわれています。今後高齢化の進行でますます税収が減っていくわけですから、どう対応するのか。まだまだ自分達のまちを自分達でやりましょうという意識が弱いので、それを高めるのが大きな課題です。

北名古屋市の目指すまち

では、北名古屋市は自分たちのまちをどういうまちにしたいのでしょうか。まちづくりは、まずは個人で参加するのが基本ですが、活動を効果的に、持続させるには組織的対応が求められます。NPO団体、町内会、あるいはいきいき隊のような任意の団体が中心になってやっていくわけです。北名古屋市のまちづくりのシンボルとして、健康のまち、花のあるまち、若い人が住みやすいまちを前面に出すのもいいのではないのでしょうか。多くの選択肢がある豊かなまちづくりを目指します。経済的豊かさはお金ですが、非経済的豊かさとしては自然、歴史、文化などです。協働は一緒にやるだけでなく住民の自立的な住民自治の地域社会を作っていくことです。自分の地域は自分たちでやっていこうという市民が増えていくことが望めます。30、40代の人には暇がないので、高齢者の多いまちでは高齢者のボランティアが多くなります。北名古屋市は住宅街ですからボランティア参加率が高まる仕組みをつくったらどうでしょうか。ボランティアは実は税金の軽減に関わってきます。例えば8万人のうち1万人が週1回ボランティアすると時給500円として、1万人で500万円分の賃金の価値が産まれます。50週では2億5千万円の税金を使った価値と同じ活動になる。ですから、ボランティアの経済的価値、参加率が高い市であればあるほど税収は増えていると言えます。これは行政のためにまちづくりするのではなく自分達のためにやるということになります。例えば、実は自分の健康を保つことが他人のためになります。医療費が少なくなります。健康であれば他人のお世話もできます。市が健康のためのヨガ講座やウォーキング講座などを行なった時は、もともと意識の高い健康な人が参加し、さらに健康になります。参加することが重要です。病気にかからない、医者に早めに行って予防に力を入れます。ボランティアもやりましょう。健康で、おいしいものを食べ、楽しいこと

をして病気にならなければ、医療費や介護保険の削減にも役立ちます。また市民の社会貢献、自己表現、ボランティア活動もなんでも楽しくないと長続きしません。

公共サービスの担い手

社会が変化するにつれ公共サービスも変わっていきます。公共サービスの担い手は多様化しています。公共サービスはこれまでのように役所が行うものではなく、花でまちをきれいにすることや、消防団、防犯見守り含めて自分たちがやることが求められてきました。そうすると町内会が重要になってきます。町内会がしっかりしている地域とそうでない地域は犯罪率が違います。町内会活動を活発にさせることは、これからの大きな協働のテーマになります。町内会や自治会は若い人の加入率が低いのが特徴です。学生は引越すから加入しません。しかし、そうした人たちにも参加してもらうにはどうしたらいいでしょうか。担い手はいっぱいいます。彼らをどのようにして巻き込むかが大きな課題です。

北名古屋市の課題を人口構造からみると、65歳以上の人口は、日本の平均23%。北名古屋市は20%で日本の平均からみると若いのが特徴です。平成29年になると北名古屋市は25.4%ですから、4人に1人はもう65歳以上になります。つまり北名古屋市もこれから高齢化していきます。高齢者は健康で長生きして、ボランティアもやり、働き手や子どもたちが増えてくるといい都市になります。10万都市を目指し、子どもや働き手などをどう増やすかが課題です。

公共サービス、まちづくりの担い手は多様です。まず市民、個人、組織も含めて町内会、地域組織、市民活動団体NPOです。公務員の皆さん、市外の人材も上手く使ったらどうでしょうか。近隣の市町との広域連携も必要です。それから団塊の世代はここ4年間で920万人が定年を迎えます。そうした人たちがボランティアや、社会貢献、仕事もしたりするといいですね。引退してはいけません。この団塊の世代の活用が重要で必要です。30代、40代のお父さん達は仕事に忙しいですからボランティアをとというのはなかなか困難です。一方お母さん達も働いている率が高くなっています。これらの世代には時間がないことが大きな課題です。子どもがいる場合はPTAに参加したりして、子どもをきっかけにして活動するのも一つの方法です。PTAなどで月1回、あるいは日曜日などに参加するなど徐々に参加していくのもいいでしょう。しかし、子ども達が幼稚園や小学校、中学校に在学しているときだけになってしまう傾向があります。卒業後、「おやじの会」を創り、子どもが卒業しても継続して活動する子どものためのNPOを作った犬山市の例もあります。そういう形でやっていくといいですね。

行政職員もまちづくりのコーディネーターとしての役割が必要になってきます。北名古屋市としての新しい公務員像を作り、まちづくりに職員も積極的に参加しなくてはなりません。一方、市民の方も5時すぎは職員ではなく市民というように公務員の活動を見なくてはなりません。

協働の多様なパターン

協働のパターンについては、行政や市民活動団体や町内会がそれぞれ100%やることもあります。他にいろいろなパターン、組み合わせがあります。北名古屋市がどんな組み合わせがいいかこれから考えていく必要があります。委託、共催、補助などの形態やお金の問題などいろいろあります。

市民の組織、町内会、ボランティア団体、NPO法人や財団法人、社団法人、学校法人や社会福祉法人も含めると協働する相手の組織はたくさんあります。市がこうしたところと上手く組んで活動をすることが求められます。ただボランティア団体だけとの協働では協働は狭いといえます。企業とも組む場合もあります。

市民、NPOが行政に提案し、こうした課題があるからどうでしょうかという市民発意の市民提案型を行政が取り入れることも必要となってきます。しかし、行政はそれらの提案をなんでもやるとはいえません。予算が限られているので、早めに提案しなくてはならないし、議会がその予算を認め

ないと実行できません。簡単ではありませんが、このような提案がどんどんでくるまにすることが期待されます。行政は平等と公平を原則としますが、地域課題はその住民しかわからないこともあり、住民が提案し、事業化されるような市民主体型の活動が進むといいでしょう。

市の方もNPO、市民と組んで協働でやろうという姿勢が求められます。ゴミの問題、子どもの問題など最初から共同提案で行う場合があります。このタイプは市民と行政の間でコミュニケーションがうまくいってないとできません。団体と市がうまくいかないのであれば、市がアプローチしながら進めることが求められます。行政職員が動かなければいけません。一緒に最初からやる場合、市民行政協働型といえましょう。

従来からある行政委託型、これは行政が市民にやってもらうというタイプです。これだと市が市民を下請けに使う傾向が強くなり時には市民が怒ります。従来からあるやり方で、行政が考えて実行しますが、市民の側はできない場合もあります。上手くやるために市民行政協働型にもっていった方が協働は上手くいくでしょう。

協働の問題

人は自分がやりたいからやる場合と指示されてやる場合ではモチベーションが大きく違います。モチベーションを上げるには自分達がやりたいような方法で進めることです。

なぜ行政が協働を簡単に推進しないかという問題は、委託した場合委託された市民の方が途中でできなくなることもあります。しかし、その責任は行政が取らなければなりません。これを行政は恐れていることかもしれません。協働でやってもいいが、最後まで責任をとってくれる、やってくれそうな安定したところに頼まざるをえません。つまり市民の側に力が無いといけません。協働には力と責任が重要です。

ボランティア活動にも当然、責任がからんできます。個人よりも組織として活動する方が責任をとれるので、NPO法人や団体を設立しようということになります。ボランティア活動のメリットは、横の関係、平等の関係です。さまざまな分野で友人ができ、範囲が近隣市、県、国、国際的なつながりになります。老後の楽しみも見出せます。とくに高齢者は外に出かけることが重要です。出歩くことは健康にも良いですね。若いころからボランティア活動に参加することにより人脈ができ、仕事にも役立つことがあります。

これまでの委託や補助とは違い、協働は対等です。行政の方が上ではなく、対等な視点が必要です。また、財源は増えるわけではないので、今の財源を整理しながら有効に使い、どのような事業をするか、変化に応じて変えていくことが必要になります。

市民の側は行政に提案する能力が必要です。市民団体の能力を育成しなくてはなりません。市民の能力アップは行政の支援が必要です。市民活動団体は民間企業にない儲け中心でないことを生かし、いろいろな人の協力があることを生かす必要があります。市民活動団体側のマネジメント能力もつけなくてはなりません。

最後にITがあるとないでは活動が変わってきました。今は携帯でどこでも連絡でき、インターネットで情報が取れるのでインターネットが市民活動を支える裏の力です。いやがらないで携帯（スマートフォンを含む）を使いこなしてください。

まとめ

結論として協働は自分のまちは自分でよくしようということが中心です。まず一番は自分のため、次に他人のためにもなります。そして、続けるためには楽しくないと続きません。まずいけど栄養のあるものを食べ続けるようすると途中で飽きてきます。活動も同じで、いいことと楽しいことを続けましょう。これがノウハウです。

(2) 先進事例発表

<花水緑の会・小松嘉久さん>

花と緑をキーワードにしたまちづくりと言っています。10年間団体が活動が続いているこれは一つの力だと思います。

一番初めは名古屋市長の主導で特色ある区づくり運動をやろうということがスタート、行政の主導です。名古屋市は4～500万円のお金をかけて偉い先生を呼んできた。だからうまくいくと思ったら大間違い。空中分解の危機が来た。そこで、

先生からの提案で花作りボランティア養成講座をやろう。初めの受講生は20人。教えてもらったものを実行しようと、名古屋市の緑生土木局の担当者にどこか実地でできる場所をと言っていたら、公園に空き地があるからと独断で決めてくれました。市民活動をやるときに受けてたつ行政の方が、やってくれるというはっきりした姿勢を示してくれました。行政と市民活動とは両方が持ちつ持たれつでないといけない。私はそう思います。市長さんもお役所の方が独断でやっても大目にみてやってほしい。

そして、市民から公募し、花水緑の会のマークを作りました。また、公園の花壇づくりだけはダメだから街頭に出て街路樹に花を植えたらどうだという提案があり、半年間役所との調整をしてOKがでて、やることになりました。協定を結んで市から苗をもらい、秋にやりました。春も当然くれるものと思いましたが実際はもらえなかった。役所は予算主義、ボランティアは発生意義で何か出てきたらその時にお金使う、お金がなきゃやりません。無理してお金を集める、企業から寄付してもらおう手があります。そこで、種から育てようということになりました。2,000株欲しいなら3倍か4倍蒔かないといけないので、8,000粒くらい種を蒔きました。そしたら全部育ちました。2,000株しか植えるところがないので、少し遠いところのお店の人に里親をお願いし、受けてもらいました。

結局どんどん花を植える場所を広げていくものですから、一つの組織でやっていたはダメということで、部会編成にしました。各部会は自由にやってもらい、困ることがあったら花水緑の会から応援に行きます。行政との交渉なら、花水緑の会。普段の活動は部会で自主的にやります。各部会にお願いしているのは月に1回ではダメ、必ず毎週やってもらうこと。その代わりに10人の会員が3人でも5人でも集まったらよい。毎週やることとなんとか続けていくこと、そしてキーワードはタダです。ボランティア活動だからお金はなしで行こう。近所で頼めば必要なものが手に入る。スコップは寄付、発電機もただで手に入れた。2004年にチューリップの球根を知り合いに頼み、砺波市長から15,000粒いただいた。やぐらは日本軽金属の工場からもらって作りました。

安心安全快適という言葉がありますね。扇川公園は5,000万円事件といって少年が友達から小遣いをまきあげていたら、5,000万円になったというすごい事件があった公園で、すごく荒れていました。ところが、花を植えて育てたところ花がきれいということで人が集まってきて、だれも立ち入らなかつた公園が午前中は子ども連れのお母さん、午後は小学生が遊ぶ安全なところになった。快適が安心、安全を連れてきた。これがキーワードになって環境省から表彰されました。

今、花水緑の会は会員250名、部会数16部会、協力者850人は1年前の数字ですが、今は1,000人越しているのではないのでしょうか。街路樹の総延長は16,000m以上、緑区内の道路の1%くらいで大したことないが、結構最近知られるようになりました。また、区政協力委員会との協働で一気に膨らむことがわかりました。なかなかそういうことができないので、10年かかってぼちぼちやっています。何か起こったときうまく対応してやれば市民活動はできるものだと思います。



<防災戦隊マモルンジャー 竹内聡一さん>

知多市は知多半島の北西部にあります。人口、世帯数は北名古屋市と一緒に市の花がツツジ。私のまちはこの赤いところで人口 2,000 人、世帯数 700。これくらいの規模の方が活動しやすいと思います。新しい人と古い人は半々くらいで仲良くやっています。

大震災の後、私が区長の時お世話になったおばあさんが、家は海拔が低いけど津波は大丈夫かと聞いてきた。区民の人は心配だろう、私のところも心配なので市役所尋ねて動き出した。海拔の入っている防災マップがあるといいと思った。防災マップを区長に頼んでも区長は忙しいし、1年たったら辞めるのでどうしようと思い、OBの区長に話をしたら、やってもいいよと言ってくれました。

防災マップ作成について市民活動推進課に相談に行った。すると「それは素晴らしい、区長OBがやるなんて。市民協働提案事業というのがある。」といわれました。補助金が事業提案でもらえます。そこで、審査に出すことになりました。防災マップは他所もやっているのに、提案が通らないので、ユニークなものにということになりました。企画提案書を書いているうちにだんだんやるのがわかってきました。最終的には海拔表示や注意表示のあるまち、毎年恒例の地域行事と連動して楽しく防災訓練をするまちとしました。提案して採択してもらわないともらえない。ITは苦手なので、紙芝居にしました。紙芝居と企画書で無事採択していただき、20万円のお金と市の援助がいただけることになりました。

それで、夏の暑いときにお年寄りや子どもさんと何度もまち歩きを行いました。注意箇所を住宅地区に書き込んでいます。歩いているうちにこういう海拔のところ低いところもあるけど、ゴミ収集場所に立てたら、みんなが見るぞということになり、立てることになりました。市の清掃センターに自分で試作品を作って、写真をとって承認に行きました。低い3mのところには海拔表示を壁にも付けました。最初のおばあさんのところも付けました。ゴミ収集場所の表示は3分の2はお知らせ板です。防災訓練や子ども会や区の行事、ゴミ収集についてなどお知らせを貼ります。地区に一か所しかない公会堂に貼るより広報できます。ゴミ収集場所は情報発信場所。注目の的になりました。

それから、毎年恒例の地域行事と連動した防災訓練を行います。夏のちょうちん祭りは夜間40本の笹を子どもが持ち、お囃子がいきます。老若男女がぞろぞろ歩きます。100人くらいの夜間の避難訓練になります。細い道はある、車が通るところがある、行列が前後に伸びたり、とっても大変。夜間の避難訓練はとっても大変です。また、盆踊り大会の会場にやぐらに海拔10メートルの看板をつけました。日中やぐらを建てる時に役員は炊き出し訓練。去年までは昼食にカツ丼をだしていたが、今年はアルファ米とカレー。安くすみしました。先ほどのマモルンジャーの紙芝居も盆踊りでやりました。盆踊りでアイスクリームを配るのですが、非常食配布訓練になって、ゲートを通して並んでもらい配りました。取り漏れはありませんでした。450個くらい配布しました。

秋の敬老会は100人対象者がいるが半数くらいの参加。敬老会に来ないのは絶対いやだという高齢者もしくは支障がある人。この日は記念品を配ります。普段はおじいさんとおばあさんの家にも開けてくれないが、何かもらえとなれば絶対待っています。こういう日に、配布する班長と一緒に行って、安否確認訓練をします。そうすると車イスの人は分かる、おばあちゃんが寝ているのが分かる全部分かります。そして老人会歩け歩け大会。今年は老人会に海拔入りの地図を配りました。コース地に海拔が書いてあります。海拔8mの公会堂から22メートルの老人福祉センターまで歩いていきました。災害のフローチャート、防災編成書、安否確認用シートを作りました。これを使って12月25日防災訓練をします。これでおばあさんもちょっと安心。市民活動は人を育てる。市活は私活。やばい話は後で。



(3) パネル討論

「質問票にお答えいただく形ですすめたいと思います。」

進行「さいしょに花水緑の会さんへ 平均年齢を教えてください。新しい人の入会はありますか？」

小松「一番最後に出てましたが、各部会に登録している会員は 250 人～300 人の間です。それから一番中核のニイノミ池での部会の平均年齢は 67 歳くらい。ただ、あんまり年の上下は関係ないです。新しい人はその中核のニイノミ池の会には入ってきません。ところが部会という



形で新しく地域で活動を始めたところは、緑土木事務所が知っているの、自分たちのまちで花を植えたいということで相談が来ます。土木事務所が花水緑の会を紹介し説明して、部会を作って参加していただきます。部会の平均年齢は分かりませんが、新しいところは若い、40 代、50 代の人があります。リーダーはだいたい会社勤めを卒業した人が多いです。緑区は 30、40 代の若い世代が多く住んでいます。緑区は古くから住んでいる人より、今では引っ越してきた人が多くなっています。」

進行「メンバーの獲得というのは市民活動をしていく上で大きな皆さんが悩むところです。新しいメンバーを増やすことは課題ですね。」

進行「私たちは子どもと地域で防犯教室を行っています。保育園、幼稚園、小学校と平日活動することが多く、仕事をもっていますが、楽しんでペープサートやお話をしています。その時勧誘していますが、メンバーを増やしたいと思いますが世代のちがう方への参加をしてもらうための方法をお聞かせください。」

竹内「一番いい方法はわかりません。子どもたちを指導してみえる。ぼくは今子どもたちからマモルンジャーと呼ばれています。紙芝居とマモルンジャーのマークは目立つのでどこであってもマモルンジャーと呼ばれています。マモルンジャーのおじさん。そうしたところから入るのもいいのではないのでしょうか。子どもたちの気持ちになったらいいのではないのでしょうか。」

進行「若くて活動的な区長を選出した知多市の選出方法」

竹内「ありがとうございます。だいたい区長は定年すぎの方。私は 62 歳で受けました。今 66 歳。それで今、次のマモルンジャーをやってくれてる人は 65,64,63,62 歳の方がマモルンジャーの区長 OB それより上だと体力がないから無理。これだけやって波風立てずにとってしまう。区長の選出は区の人が気を使って定年を過ぎたあたりの方に当ててきます。」

進行「竹内さん、ぜひ、やばい話を聞かせてください。私は 101 歳まで元気に楽しく生きていたいと思っている。私は毎朝ラジオ体操をやっています。北名古屋市で 5 箇所になり、毎朝約 300 名ウォーキングして、ラジオ体操しておしゃべりしてそのことが元気になることかと思えます。そして、市内にウォーキングコースを 100 コース選び、マップをつくり、グルメコース、カルチャーコース、〇〇コースと興味を持って歩けるようにしたいと思っている。これらも市民活動でしょうか。」

竹内「すごい。私もあやかりたい。やばい話はいっぱいあるが、盆踊りはコミュニティ会長受けた時、盆踊り 5 地区を 1 箇所ですべてやっという話があるから、申し送っておくわと言われた。冗談じゃない。盆踊りは避難訓練だが、おばあさんや子どもが来て、帰れるようなところでなきゃ一度でやって、遠くなったら来れない。いくら 1,000 人集まってすごいといっても、1 区でやって 450 人集まるんだから。そういうのはダメです。それから、歩け歩け大会で大体先頭は女性軍。中にはもっと前にいっちゃ

う。理由はトイレです。気づかなかったので予定のないお寺で休憩したら、トイレのある所で休憩しなきゃだめといわれた。こういう活動には絶対女性の視点が必要。子どもの視点も、障害の方の視点も必要。いろんな視点が市民活動には必要です。」

進行「日長3区は海拔8m、9m、22mということは、海面より8m、9m、22mも低いんですか。」

竹内「高いという意味です。日長3区が一番低いところは3m、高いところは30mその間を歩いている。北名古屋市もすごい。来る時調べたが、海拔7mくらい、5mくらいのところも多い。調べたら、一宮は津波がきていることが判明しました。ここも危ないかも。」

小松「それは1,200年前の地震の後の津波だと思います。その当時は海がもっと近かった。1,200年の間に土が埋まっているので、1,200年前の海岸線は今の302号線くらいが海岸線。一宮のあたりは今の感覚ではもっと南なので、いくら地震が大きくても来ないでしょう。昔はありましたが、絶対とは言えないが、生きている間は来ないのでは。」

進行「地域のコミュニティの規模について最適と思われる大きさ(人口・面積)があらうかと思います。

どう考えられますか？(課題共有、人材発掘、日常的交流)」

小松「ぼくらの活動は逆に言うと、私の住んでいる学区は区政協力委員長さんが動いてくれません。だから、自治会活動とは別個で動いている。新しく入ってくるところで、自治会活動の延長で入ってくれる部会が3つくらいあります。ここはものすごくスピードが速い。だから既存の組織をうまく使えた場合はいっぺんに発展する。そうじゃないところは身内だけの堅い結束で細々とつないでいます。」

竹内「市の範囲よりも区の範囲。500世帯、ぼくらは700世帯それくらいがいいと思います。地域的にも自転車で行ける範囲、車で行ける範囲はダメ。竹馬の友がいる範囲。保育園の範囲、小学校だどちょっと広い、お祭りやったり、竹細工したりしている。コミュニケーションのとれる範囲ってそんな感じ。今、マモルンジャーは新しいところに9人のうち3人入ってもらっていますが、だいたい昔のわんぱく坊主がマモルンジャーごっこやっている感じです。」

進行「活動を推進するためには金が必要と思う。先行投資の考えが必要ではないか？」

小松「お金はたしかに初めはいる。2001年の特色ある区づくり運動を始めた時に名古屋市がそんな予算を組んでいたと知らなかった。偉い先生が毎月1回、2回緑区へ来て、指導してくれて、会合議事録NPOのようところがしっかり記録をとってくれる。ところが、1年たって消えました。先生にあなたが会長をやりなさいと言われ受けた。その時にそんなにお金がついていたと知らなかった。またお金を使えばでてくると思っていたら、もうお金は出ないといわれました。しかし、行政には知恵があり、ちゃんとかいいうところへ行くと補助金がもらえると教えてくれた。そこで名古屋都市センターの補助金に応募した。コンペがあり事例発表して採択され50万円くらいもらいました。大きかった。2年補助金もらって、その間に必要なものはなんとかした。なんとか初めに補助金が切れるまでにやること、それも物で残すことが大切です。例えば花水緑の会の看板を必ず土に刺します。この会がやるとまわりに知らせます。10年間は看板は残っています。物が残るといのは一番すごい。ものを見ることによって、ダウンしかけた人も立ち上がるでしょうし、今まで関係ないよという人もいいなという感覚が出て来ます。スタートの1年目、2年目にお金があったら、残るものを作る。作ったものに今度は逆に自分達がよりかかって活動する。これが必要だと思います。」

進行「武長先生からみた北名古屋市の市民協働を感じたところは？」

武長先生 北名古屋市を先日視察しました。歴史民俗資料館、いきいき隊、回想法センター、加藤家に行きました。いきいき隊の会員が300人くらいいると聞いてすごいなと思いました。市の博物館の学芸

員の方に加藤家で回想法のキットを説明していただきました。あれこそまさに協働の事例です。300人の会員がいるのにまだNPO法人化していないとのことですが、今後NPO法人化した方がいいのではないかと思います。どうしてかといえば、NPO法人にすると責任も生じ、資金の調達問題もできません。活動には人、物、金、情報の4つの資源がうまくマネジメントされれば活動はうまくいきます。特に人が重要です。北名古屋市には多くのいろいろな能力のある人がいますよね。集まる場所、コピー機、印刷機などの物、あるいはインターネット環境の整備などは市が準備しなくてはならないと思います。

「北名古屋市民活動支援センター」をぜひ、作ってください。北名古屋市は2つ市庁舎があるので、活用できる公共施設は結構あるのではないのでしょうか。

資金の問題は市が市民活動支援基金を作ります。例えば瀬戸市は300万円くらいの基金を毎年市民活動に補助しています。今までは補助金を整理して作りました。補助金は50万円から30万円くらいです。審査してダメな活動のときは補助をカットし、250万円くらいしか出さない時もあります。市がまず行政主導型で資金を援助して市民活動団体を育てることも重要でしょう。さっきの小松さんと名古屋市のスタイルなんかもよい例です。基金の作り方としては、市が税金から毎年お金を出す基金もあります。あるいは、当初市が3,000万円、2,000万円くらいの種銭を出します。同時に寄付を企業や市民から集めたりします。3,000万円の基金の場合、昔は利子がよかったのですが、今は利子は低いので、300万円を10年間で取り崩すタイプが一般的です。途中で民間から寄付があったら、その分だけ市が出すというマッチングギフトという方式があります。愛知県の場合は万博が終わった後の余剰金でモリコロ基金がありまして、団体に30万円くらいもらえます。活動レベルによって100万円とか、300万円もあるのですが、外からのいろんなお金を利用するのもひとつの手でしょう。企業が設立している基金へも応募も一つの方法です。自分達団体にバザーやったり、フリーマーケットしたり自分達でお金を作るやり方もあります。

情報は先に述べたように「市民活動支援センター」を作って、そこにインターネット環境を整備したり人が集まったりして情報交換をすることが第一歩です。市でぜひ進めてもらいたいのは市が講座を開催し、その講座を卒業した人たちがその後いろんな会を作ることを支援することです。これまでいろいろな講座を市が開催してきたと思いますが、さらに市が率先して進めることが求められます。例えば、市の歴史を調査・研究する講座、回想法の講座、お母さんたちの子育てのための講座などが考えられます。昼間がダメなら夜開催するか土日開催するかを考えてください。講座終了後、講座をやりっぱなしにせず、リーダーがいないと会が続かないので、リーダー養成講座を開催することも重要です。ボランティア活動に対してもボランティア初級講座と中級講座とレベルに合わせて開催します。北名古屋市は若い人も多いまちなので、そういう面で皆さん大人たちや行政がいろいろやる気になれば、伸びるまちでないかなという印象です。レベル的にはまだ発展途上だと思います。企業との連携も結構重要です。ここにどういう企業があるか分かりませんが、企業を抱き込むことも一つの方法だと思います。北名古屋市はこれからいっぱいやることのあるのではないかと思います。